

実践ノート

「看図作文」の授業を始めたくになったら —コレだけ知っていれば、自信をもてる!—

森 寛¹⁾

MORI Hiroshi

キーワード：変換・要素関連づけ・外挿・学習指導要領の裏づけ・「問い」をもつ心

0. 「看図作文」の授業を始めよう

本誌は「全国看図アプローチ研究会」の研究誌です。ですから、掲載される論文は、どうしても「看図アプローチ」の実践がほとんどです。看図アプローチの実践がどれも素晴らしいのはもちろん言うまでもないのですが、それに負けないうくらい素晴らしい実践を生むことのできる「看図作文」についてもぜひ知っていただきたくて、これまで2本の拙論を掲載していただきました。

- ① 『『看図作文』のスズメー誌上・模擬授業体験を—』(2号)
- ② 『『看図作文』の授業レポート—『20枚の絵図』で願いを伝える—』(13号)

今号では、「看図作文」の授業に挑戦してみたくなった方のための「手引き」として、筆を執りました。題して、『『看図作文』の授業を始めたくになったら—コレだけ知っていれば、自信をもてる!—』です。

国語の先生でなくても構いません。「なんだか面白そう。」「私も、やってみようかな。」と思っただけであれば、こんなにうれしいことはありません。ちょっと長い文章になっていますので、コーヒーやお茶でも飲みながら、どうぞお気軽にお読みいただきますよう、お願いいたします。

1. 【初級編】「この本」を読もう

最初のステップは、「インプット」です。授業を始める前に、少しだけ、勉強をしておきましょう。

現在までに刊行されている「看図作文」に関わる書籍は、次の3冊です。

- ① 『やる気をひきだす看図作文の授業—創造的[読み書き]の理論と実践—』(鹿内2003)
- ② 『看図作文指導要領—「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン—』(鹿内編著2010)
- ③ 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち・看図作文レポートリー・』(鹿内編著2014)

3冊全部を読まなければ実践できないかという、そんなことはありません。ここは「初級編」です。まずは、③の本(以下、『看図作文レポートリー』と略記します。), 1冊だけを手に入れてください。

なぜこの本が「最初の1冊」になるかというと、こんな特長があるからです。

- ・刊行年が一番新しいためか、解説がとても易しい(=優しい)。特に、「授業に入るまでの準備」や「実際の授業の様子や注意事項」が、

1) 札幌市立西野中学校

一番詳しく、一番楽しく書かれている。
・授業で使える「絵図」が巻末にまとめて載せられているので、コピーをとって、すぐにも準備を始めたい。しかも、どの「絵図」も、授業づくりのイメージが浮かびやすい。

せっかくですので、この本の「目次」を紹介し
ます。

第1章 看図作文の可能性

1-1. 可能性を広げていくために

第2章 看図作文授業の工夫

- 2-1. 授業づくりの準備
- 2-2. 授業者とのコラボ
- 2-3. こんな授業を考えた
- 2-4. 「せんべい&チョコ」の作文例
- 2-5. さらに充実した授業にする

第3章 基礎的能力を育てる看図作文授業

- 3-1. この絵図でこんな授業をつくる
- 3-2. 教師はファシリテーターとなる
- 3-3. 看図作文基礎基本の授業づくり

第4章 構成力を育てる看図作文授業

- 4-1. 学習者が構成を考えられる看図作文
- 4-2. 「なぜ？」をいかした構成指導
- 4-3. 会話文をいかした構成指導

第5章 協同学習ツールとしての看図作文

- 5-1. 創造性を育てる協同学習看図作文
- 5-2. 入門的な協同学習看図作文授業
- 5-3. 協同学習看図作文3連続実践

第6章 さらに広がるレポーター

- 6-1. 安心感を与える
- 6-2. 物語のかたち
- 6-3. つなげる力を育む
- 6-4. 「書きたい!!」

第7章 生き方を模索する想像力を育てる

- 7-1. 生き方を模索する練習

7-2. 「問題—解決」状況のメタ認知

7-3. 自分の未来は自分で拓く

文献

付録

あとがき

国語の先生でなくても、「なんか、読みたくなってきたな。」という方も、いるのではないのでしょうか。また、この目次には載っていませんが、役に立つ「コラム」、楽しい「コラム」もあります。

関連書籍は3冊ありますが、「最初の1冊」は、この『看図作文レポーター』がオススメです。

2. 「学習者が動き出しそうな絵」を選ぼう

次のステップは、「絵図選び」です。

ポイントは、2つあります。

- ① 「絵図」を「何枚」にするか、を決める。
- ② 「絵図」のキャラクターを「何」にするか、を決める。

まず、①から詳しくお伝えします。看図作文の授業で使う絵図は、「1枚」「2枚」「3枚以上」があります。

「最初の授業」であれば、「1枚」コースがオススメです。ご自分の教室の児童・生徒・学生（以下、「生徒」と略記します。）の顔を思い浮かべて、「ああ、そうか!」「なあるほど!」「わかった!」……といった声があがりそうな「絵図」を1枚、選んでください。（編集委員会注：基本的な絵図は、看図作文に関する書籍に掲載しています。書籍に掲載しているもの以外にも、たくさんの看図作文用オリジナル絵図が開発されています。授業での活用を希望される方は、「全国看図アプローチ研究会」HPの「お問い合わせ」メニューをとおして相談ください。）

次に、②です。看図作文の授業で使う絵図には、「人間」「人間以外」「人間+人間以外」のキャラクターが登場します。

研究誌第2号では、「人間+人間以外」の絵図を使った「イスの世界」の授業を紹介しました。

第13号では、「人間」の絵図を使った「温度差」の授業を紹介しました。

前項でオススメした『看図作文レパートリー』には、「ぞうとうさぎ」の「1枚」もの、「りすときりん」の「2枚」もの、「ウサギ」（うさぎの畑）の「3枚」もの、などが掲載されています。これらは、みな「人間以外」にあたります。

こちらも、ご自分の教室の生徒の顔を思い浮かべて、「カ〜ワイイ〜!」「えー、なにコレ?」「まじ、ウケる〜。……」といった声があがりそうな「絵図」を選んでください。

「どれも面白そう!」「選びきれない!」という方には、この「絵図」(図1)がオススメです。



図1 ねぎ (鹿内編著 2014, p.182より)

いかがでしょう。なんだかウズウズしてきませんか(笑)。

3. この「3つ」だけ押さえておこう

「絵図」が決まれば、すぐにでも授業を始めたいくなるでしょうが、その前に、次の「3つ」だけ、押さえておきましょう。その「3つ」とは、これです。

- ①変換
- ②要素関連づけ
- ③外挿

言葉がなんだか物々しく見えます。それぞれをあえてランボーに説明すると、このようになるでしょうか。

- ①変換 … 絵図の中の「パーツ」の意味を読み解くこと。
- ②要素関連づけ … 絵図の中の「パーツ」と「パーツ」の関係を読み解くこと。
- ③外挿 … 「絵図の外のこと」を読み解くこと。

研究誌2号の「イスの世界」(図2)を例にお伝えします。

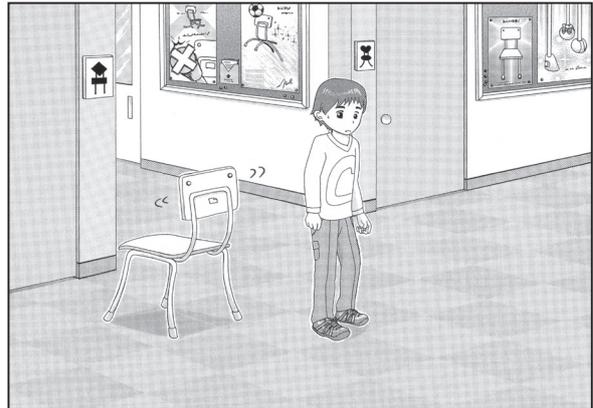


図2 イスの世界 (屋内)

①の「変換」とは、「トイレのマークのように見えるもの」を「これは男イスのトイレのマーク」と決めること。「ポスターのように見えるもの」を「これはイスの世界の部活動の勧誘ポスター」と決めること、です。絵図の中にある「パーツ」の1つ1つを読み解いて、「コレは、コレ」と決めていくことを指します。

②の「要素関連づけ」とは、「トイレのマーク」と「部活動のポスター」など複数の「パーツ」を関連づけて、「ここは『イスの世界』で、少年は何らかの理由でこの『イスの世界』に紛れ込んでしまったようだ。」と決めることです。

③の「外挿」とは、この絵図には直接は描かれていない状況を想像・創造することです。例えば、「イスの世界に至る前(または後)には、こんなことがあった。」や「学校の外では、こんなことが起きていた。」のように、時間や空間を超えて、想像・創造することを指します。

これよりも、もっとていねいな説明は、『看図作文レパートリー』の41ページから書かれてい

ます。ぜひお読みください。

この①「変換」②「要素関連づけ」③「外挿」の3つがわかっていると、自信をもって授業を進めることができます。生徒が「絵図」を目にして、「オリジナルのストーリー」を各自が生み出していくまでの「プロセス」を、確かなものにしていくことができます。

「教室にいる全員」が作文を完成させることができるようにするため、この「3つ」だけは、しっかり押さえておいてください。

4. ワンポイント・アドバイス

「看図作文」の授業は、生徒にとって、本当に「楽しい時間」になります。作文の授業だというのに、書く前も、書いている間も、書き終わった後も、どの時間も「楽しい時間」になります。

ここは「初級編」ですので、ワンポイント・アドバイスを贈ります。生徒が「書いている間」についてのアドバイスです。ポイントは、2つです。

- ①「時間配分」を決める。
- ②「書くスタイル」を決める。

①について。まずは、「授業全体の時間」を決めましょう。「1時間扱い」「2時間扱い」「それ以上の扱い」など、授業全体の総枠です。

それが決まったら、「書く前の生徒同士のやりとりの時間（事前）」と「実際に書く時間（事中）」と「書いた作文を読み合う時間（事後）」の時間配分を決めます。

なかでも、まん中の「実際に書く時間」を決めておくことが大切です。「書く時間」には個人差があります。授業中に終わらなかった場合、どうするか、事前に決めておいて、生徒にしっかり伝えておきます。

②について。「原稿用紙」に書かせるとしたら、字数は何字にするか。「罫線の入った用紙」にするなら、タテ書きがいいか、ヨコ書きがいいか。「無地のワクだけの用紙」にするなら、どのくらいの大きさにするか……。どんな用紙に書くと、生徒が伸び伸びと、おおらかに書けそうかを考えて、

手渡したいところです。

ちなみに私（森）の場合、今年度は中学校3年生の担任で、5クラス195人を相手に授業をしています。

①でいうと、授業中に終わらなかった生徒は、休み時間や昼休みを使ってでも、「締切は今日中」。「放課後、清掃時間が終わるまで」に出すことが義務づけられています。

②でいうと、「400字詰原稿用紙で1枚」。「最後の行まで書くこと」「はみだして、ウラに書いたらダメ」が義務づけられています。

①と②のように、「ギッチギチのタイトな時間と字数の制限」にする理由は、私の場合、次の授業の冒頭で「優秀作文を読み合う時間」を設けているからです。その日のうちに集めきれないと、「優秀作文」のプリントを作れなくなってしまいます。

ただ、このような厳しい「制限」は、決してどなたにも勧められる形ではありません。授業される方は、ご自分の教室にいる、目の前の生徒に一番合った、ゆとりある「時間配分」と「書くスタイル」を決めてください。「ギッチギチのタイトな制限」のもとでは、「看図作文」の授業の魅力は、半減してしまいます（笑）。

5. 【中級編】「中級編」では、「この本」を

「中級編」です。「中級編」では、この本をオススメします。

- ②『看図作文指導要領―「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスン』（鹿内編著 2010）

タイトルに「指導要領」とありますが、決して堅苦しい内容ではありません。この本をオススメする理由は、次の2点です。

- ・「書く前の段階の指導」についてのバリエーションが、実に豊富。「インプット・アウトプット法」「疑問点列挙法」「オリエンテーション変更法」……などなど、理科や社会、総合的な学習の時間などで、図・表・グラフなどの読み取りにも応用できそうなアプローチが、

数多く紹介されている。

・「作文だけにとどまらない学習活動」の在り方が紹介されている。「アタマにヘタがあって、表情豊かな野菜のようなキャラクター」が2人(2匹?)いて、それを動かしてストーリーを生み出す授業。「サンタクロース」「クリスマスツリー」「星」「雪だるま」などのカラーのイラストをコピーして切り取って、実物を目にしながら絵本をつくる、といった授業……などなど、授業づくりの発想が刺激される。

この本も、「目次」を紹介します。この「目次」だけで、読みたくなるでしょう。いや、すぐにでも買いたくなるでしょう。ある意味、「キケンな目次」です(笑)。(編集委員会注：この書籍は版元品切れです。図書館等でお探してください。)

第1章 やる気をひきだす看图作文

- 1.1 看图作文とは
 - 1.1.1 「みる」ことの力
 - 1.1.2 「みる」ことと国語教育
 - 1.1.3 看图作文で用いられる絵図
 - 1.1.4 看图作文の授業理論
 - 1.1.5 絵図を読み解く活動
- 1.2 やる気の扉をひらく
 - 1.2.1 発見がうまれる
 - 1.2.2 疑問がうまれる
 - 1.2.3 達成感がうまれる
 - 1.2.4 拍手して喜ぶ
- 1.3 「驚き」を「やる気」につなげる看图作文
 - 1.3.1 絵図の工夫をいかす
 - 1.3.2 絵図「浦島」を使った5年生の授業
- 1.4 協同学習ツールとしての看图作文
 - 1.4.1 活発な話し合い
 - 1.4.2 考え方が広がるおもしろさ

第2章 創造性を高める看图作文

- 2.1 インプット・アウトプット法

- 2.1.1 インプット・アウトプット法とは
- 2.1.2 インプット・アウトプット法の授業
- 2.2 疑問点列挙法
 - 2.2.1 疑問点列挙法とは
 - 2.2.2 疑問点列挙法の授業
- 2.3 オリエンテーション変更法
 - 2.3.1 オリエンテーション変更法とは
 - 2.3.2 オリエンテーション変更法の授業1
 - 2.3.3 オリエンテーション変更法の授業2
 - 2.3.4 オリエンテーション変更法の授業3

第3章 活用力を高める看图作文

- 3.1 自己をふりかえり未来を探る看图作文
 - 3.1.1 大切な発達課題
 - 3.1.2 「ギター少年」絵図を使った中学生用授業
 - 3.1.3 「ギター少年」絵図を使った小学生用授業
- 3.2 見通す力を育てる看图作文
 - 3.2.1 1時限目の授業
 - 3.2.2 取材活動の位置づけ
 - 3.2.3 作文の記述
 - 3.2.4 2時限目の授業
 - 3.2.5 3時限目の授業
 - 3.2.6 4時限目の授業

コラムA

- 3.3 意見文指導ツールとしての看图作文
 - 3.3.1 学習指導要領との関連
 - 3.3.2 授業の展開
- 3.4 行事作文を活性化させる看图作文
 - 3.4.1 楽しく書ける行事作文
 - 3.4.2 授業モデル
 - 3.4.3 授業モデルのステップ
 - 3.4.4 その他の感想文例

コラムB

第4章 低学年でできる看図作文

- 4.1 簡単にできる「順序よく書く」指導
 - 4.1.1 学習指導要領との関連づけ
 - 4.1.2 授業の展開
- 4.2 楽しくできる「順序よく書く」指導
 - 4.2.1 多段階動機づけシステム
 - 4.2.2 授業の展開

第5章 看図作文のさまざまな技法

- 5.1 クローズ法
 - 5.1.1 クローズ法とは
 - 5.1.2 「村まつり」を用いたクローズ法
 - 5.1.3 「だがし屋さん」を用いたクローズ法
 - 5.1.4 クローズ法からの発展
- 5.2 問答法
 - 5.2.1 問答法とは
 - 5.2.2 授業の実際
 - 5.2.3 作文を書く
 - 5.2.4 推敲指導について
 - 5.2.5 予防指導
 - 5.2.6 問答法に使える他の教材
- 5.3 キャラクター設定法
 - 5.3.1 キャラクター設定法とは
 - 5.3.2 授業の展開
- 5.4 メルヘンスケープ法
 - 5.4.1 メルヘンスケープ法とは
 - 5.4.2 材料
 - 5.4.3 授業の概要

コラムC

第6章 看図作文の発展可能性

- 6.1 自分で絵も描く看図作文
 - 6.1.1 キャラクター設定法のシリーズ化
 - 6.1.2 看図作文の最終目標
- 6.2 看図作文からデジタル絵本へ

あとがき

いかがでしたか。予告した通り、やはり「キケンな目次」だったでしょう（笑）。

6. 絵図の「もうひとつ」のはたらき

私が「看図作文」の授業をする時には、生徒たちに「絵図を読み解くおもしろさ」を味わってほしい、「読み解いた絵図の意味」をつなぎ合わせて物語をつむいでほしい、と考えています。ですから、授業で使う「絵図」は、「複数の解釈を生み出すもの」を選んでいきます。これまで本誌に掲載していただいた実践も、この系統です。

ところが、看図作文の「絵図」は、この系統だけにとどまりません。実は、もうひとつ別なはたらきをする「絵図」もあるのです。

あれこれ小難しいリクツを並べるその前に、実際に現物をご覧くださいませ。まずは、この4枚です。（図3～図6）

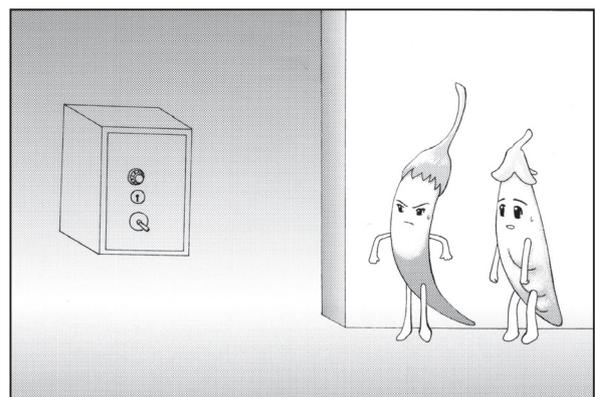


図3 金庫やぶり①

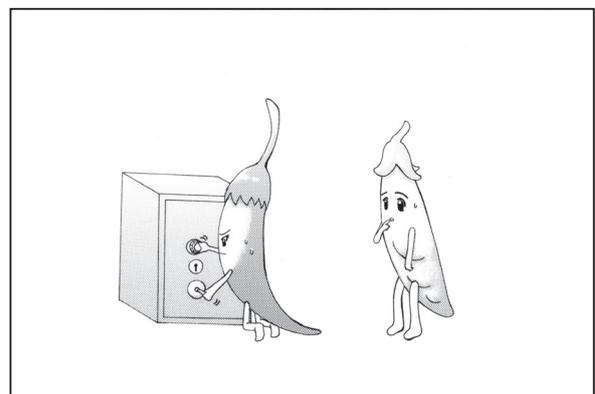


図4 金庫やぶり②

（鹿内編著 2010, pp.199-200 より
すべて ©yuki.ishida）

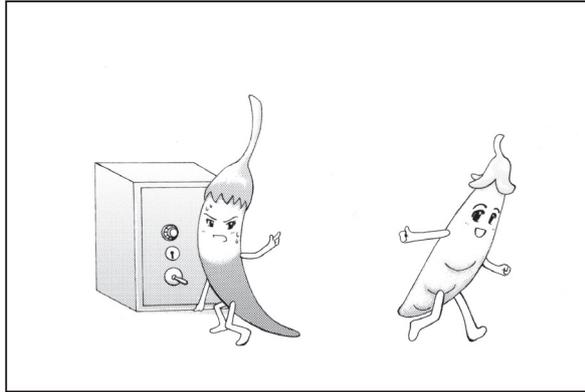


図5 金庫やぶり③

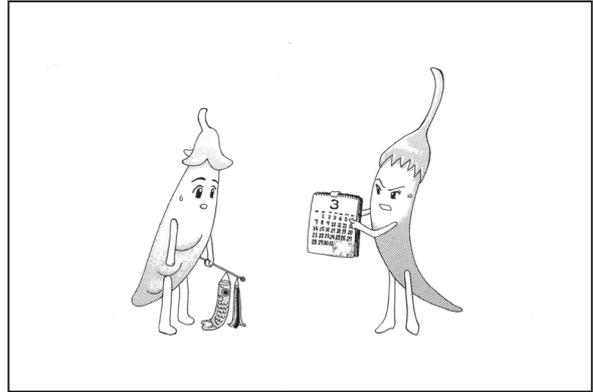


図8 おひなさま②

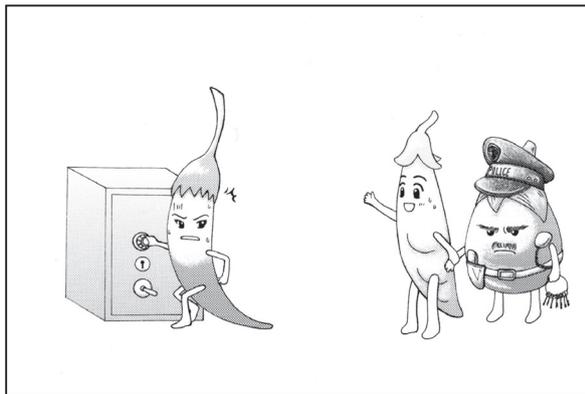


図6 金庫やぶり④



図9 おひなさま③

この野菜(?), なんかカワイイですね。生徒に名前を考えさせたら, おもしろいものが出てきそうです。

そして, この3枚です。(図7~図9)

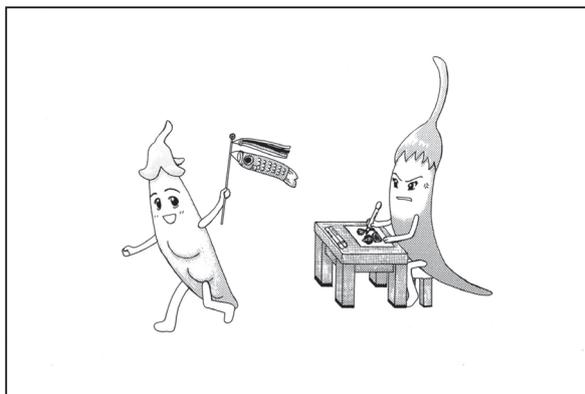


図7 おひなさま①

(鹿内編著 2010, pp.203-205 より
すべて ©yuki.ishida)

こういった「キャラクター」が入った「絵図」を教室に持ち込む, また, シリーズ化して何度も持ち込むと, 生徒は授業が始まるのをワクワクして, 先生を待ちこがれるようになるでしょう。ひょっとしたら, ひととおり授業を終えて, 他の分野や他の単元に入ろうとすると, クレームやブーイングが起きるかもしれません。

「キャラクター」は, 他にもたくさんあります。この「全国看図アプローチ研究会」のホームページをご覧ください。黄色い背景に, アルファベットの「Q」の文字を手にしている2人のキャラクターがいます。さらに, ちょっと下に目を移すと, 手を洗っていたり, マスクをしているキャラクターもいます。

これは「きゅうちゃん」といいます。この「きゅうちゃん」を使って, 「看図作文」でも「看図ア

ブローチ」でも、授業をしてみたいという方は、この研究誌の「編集長」兼「専属アートスタッフ」の石田ゆき氏にお願いしてください。ビックリするくらいの数とバリエーションの「きゅうちゃんカタログ」を譲っていただけることでしょう。

生徒に手渡して、自分の好きな「きゅうちゃん」を何枚か選んで、ハサミで切って、ワークシートに貼っていくと、それはそれはステキなストーリーが、人数分生まれるはず。次の時間にみんなで読み合うと、教室の空気が柔らかで、温かいものになるでしょう（石田他 2019, 茅野 2020 および本研究会公式 YouTube チャンネル参照。URL は以下です。）

<https://www.youtube.com/channel/UCXJJ4CInSbfhIVClkbnN2Og/featured>

7. 学習指導要領の裏づけ

「看図作文」の授業をすると、あまりにも楽しくて、あまりにも集中する時間になってしまうので、意地の悪い同僚の先生から、こんな批判が出るかもしれません。

- ・ なんだあの授業、遊んでいるだけじゃないのか。
- ・ 生徒のご機嫌とりでもしてるのか。
- ・ あんな勝手なことされちゃ、困るんだよな。

もし万が一、そんないわれのない非難・中傷が聞こえてきたら、にっこり笑ってこう言ってさしあげましょう。

貴重なご意見、ありがとうございます。
実は、私、マジメで気弱な性格なものですから、学習指導要領にのっとって、その通りの授業をしているだけなんです。

それでもしつこく「なにさ、ウソ言うんじゃないわよ。」などと言われたら、学習指導要領のページを開いて、指をさして親切に読んでいただきましょう。小学校の学習指導要領には、次のような文言があります（下線は森が付けました）。

B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付け

ることができるように指導する。

ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。

イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考
えること。

オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え
合い、自分の文章のよいところを見付け
ること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ウ 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。

〔第3学年及び第4学年〕の「2 内容」より

小学校では、〔第1学年及び第2学年〕にも、ほぼ同様の記述があります。中学校では、〔第2学年〕の「言語活動」のところにドンピシャの記述があります。

「看図作文」の授業は、学習指導要領の裏づけがある、確かな授業なのです。

8. 「主体的・対話的で深い学び」を生み出す装置

前項でちょっと「リクツっぽいこと」を書いてしまったついでに、もうひとつだけ書き記しておきます。

ここ数年、「アクティブラーニング」だの、「主体的・対話的で深い学び」だの、これまでよりずっと「質の高い授業」「機能する授業」が求められています。

校内・校外で研究授業をすることになった場合、この「看図作文」の授業は「無敵なコンテンツ」になります。詳しいことは、本研究誌2号の18ページをご覧ください（森 2020）。

ざっくりおおざっぱにお伝えすると、このようになります。

①「主体的な学び」を生み出す装置

「看図作文」の授業で使う「絵図」が持つエネルギーは、生徒を自動的に「主体的」にさせてしまいます。「非・主体的」でいることを許さない、と言っていいかもしれません。大人も子どもも引きこまれ、つい本気になってしまう装置となるのが「看図作文」の授業なのです。

②「対話的な学び」を生み出す装置

「看図作文」の授業で使う「絵図」には、いわゆる「ひとつだけの正解」がありません。「わからないこと」を楽しめる「絵図」のイミを、生徒同士で話し合いたくなります。話し合った結果、AさんとBさんの解釈が異なることになってもOKなのです。

③「深い学び」を生み出す装置

一度完成させた作文であっても、時間をおいてもう一度書いてみたら、まったく別の作文が生まれるでしょう。それに、何回書くことになってきつとその都度、新鮮な目で「絵図」を読み解くことができるはず。一度ふれたらもうそれで完結、といった「浅い学び」ではなく、何度でも新たな発見のチャンスをもたらす「深い、深い学び」を「看図作文」の授業は保証してくれます。

コロナの感染拡大を心配しなければならない時期が去ったら、上の②「対話的な学び」の時間を、もっともっと増やしてあげたいものです。

研究誌13号(森2022)に掲載していただいた「20枚の絵図」の授業では、この「対話的な学び」の時間をほとんど設けることはできませんでした。グループごとに机を突き合わせている時間は、「無言が基本」でした。

リモート授業で画面越しに学習に参加しているのではなく、せっかく生徒同士が直接顔を合わせているのですから、こんな不自然な形は決して望ましいものではありません。

それに、「いやあ、これ、わかんないなあ。」「全然、思い浮かばね〜。」「ちょっと、一緒に考えてくれない?」などといった「前向きな泣き言」を言い合える時間、聞き合える時間が授業中につくられたら、クラスの間関係も、きっとこれまで以上に良くなるのではないのでしょうか。

9.【上級編】「上級編」は、「この本」を

いよいよ「上級編」までできました。ここまでよくお読みいただきました。ありがとうございます。きっと少々、お疲れのことでしょう。コーヒーやお茶を淹れ直すなら、このタイミングです(笑)。

もうおわかりですね。「上級編」は、この本をオススメします。

①『やる気をひきだす看図作文の授業—創造的[読み書き]の理論と実践—』(鹿内2003)

この本を「上級編」としてオススメする理由は、次の2点です。

- ・創造的な「書き」の「看図作文」は、実は創造的「読み」の延長線上にあった——などといった研究の源流にふれることができる。現在、これだけの実践群を生み出すことのできる骨太の実践理論について、卒論や修論のテーマにするなら、必読かつ必携の一冊。
- ・「石田ゆき氏の絵図」ではない、「made in Chinaの絵図」が掲載されている。また、小・中・高・大から大人まで、学校の教科にとられずに広く適用できる「自己分析」の実践が魅力的。

「made in Chinaの絵図」ってどんなものか、興味ありませんか(笑)。この後、ご覧いただきますので、どうぞお楽しみに。

さて、この本の「目次」は、次の通りです。「看図作文」がカタチになるまでの道の一端がうかがい知れます。

はじめに

第一章 看図作文授業を支える基礎知識

第一節 国語の授業と動機づけ

- 「灌腸」を口にする
- 内発的動機づけ
- 動機づけに関する誤解
- やる気をださせるのは教師の仕事
- やる気を引き出す方法

第二節 国語の授業における「発見」

- 追体験としての発見
- 主体的発見
- 創造的发现
- 創造的发现の読み
- 「創造的发现の読み」の実践

第二章 創造的「読み書き」の方法を探る

第一節 認知心理学を实践に役立てる

- 認知心理学と国語教育
- モデルを使った世界の理解①
- モデルを使った世界の理解②

第二節 物語モデルを使った「読み書き」の实践

- わけのわからない状況を理解する
- 物語モデルとは
- 物語モデルを使って「読み書く」
- 協同学習による推敲
- 物語モデルを活用した協同推敲

第三節 オリエンテーションを活用した新しい意味の発見と創造

- オリエンテーション設定による意味の理解
- オリエンテーションを変えれば意味も変わる
- 状況設定をオリエンテーションにした読みの実践

第三章 「創造的読み」から看図作文へ

第一節 絵図テキストの活用

- 「創造的読み」の面白さを作文指導へ

- 文字テキストから絵図テキストへ
- 看図作文との出会い

第二節 看図の動機づけ効果

- 看図の面白さ
- 看図による授業の活性化

第三節 発見の場としての看図

- 国語の授業に発見を取り入れる
- 発見を取り入れた教科書教材
- 子どもは何を発見するか
- 子どもは「いやなもの」を発見する
- 国語の授業でも発見のための実験を

第四章 中国における看図作文の指導

第一節 看図作文が普及している理由

- 後樂園と看図作文
- 教学大綱と看図作文

第二節 低学年看図作文指導のアイデア

- いろいろな視点から書く
- 順序よく書くための指導
- 興味関心を高める工夫

第五章 看図作文と情報処理

第一節 絵図理解の情報処理

- 「よく理解する」とはどういうことか
- 理解に必要な三つの処理
- 変換と要素関連づけ
- 発見のある看図作文—外挿

第二節 ボトムアップとトップダウンの看図作文

- ボトムアップの看図作文
- トップダウンの看図作文
- 「たぬきの病気」型トップダウンと「春のたより」型トップダウン
- 物語文産出と説明文産出の決定因
- 「問題」オリエンテーションによるトップダウン

第六章 看図作文の授業実践

第一節 取材と構成の同時指導

- 「書くことがない」の克服

■問答法による看図作文の指導

第二節 子どもの主体性を活かした看図作文の授業

- 質問や構成を自分で考える授業
- 絵図を詳しく観察させる方法
- 子どもの質問を活かした問答法
- 関係図づくりによる構成指導
- 想像を引き出す看図作文
- 子どもの事態にあわせた構成の指導

第三節 子どもの力を引き出す看図作文授業

- 目標を確実に達成できる指導方法
- 目標に応じた絵図の選定
- 取材指導・構成指導の典型
- 合理性のある想像を引き出す看図作文
- 授業を楽しくする看図作文
- どんな子も作文が書ける看図作文

第七章 看図作文の可能性

第一節 韓滉「五牛図」を用いた自己分析の授業

- 牛を手掛かりにして自己を理解する
- 「五牛図」の寓意解釈
- 「五牛図」を活用した自己分析文
- 「五牛図」を活用した中学校の授業
- 「五牛図」の教材研究

第二節 高其佩「高崗独立図」を用いた自己分析の授業

- 自分の絵を手掛かりにして自己を理解する
- 「高崗独立図」の解釈
- 「高崗独立図」読み解きの訓練
- 自分で描いた絵を活用した自己分析文
- 「高崗独立図」を活用した中学校の授業

第三節 教師も楽しめる看図作文授業

- 工夫が楽しい看図作文授業
- 遊び心を入れた看図作文

あとがき
文献

10. 「自己分析」できる「絵図」とは？

お待たせしました。「made in China の絵図」です。ご覧ください。

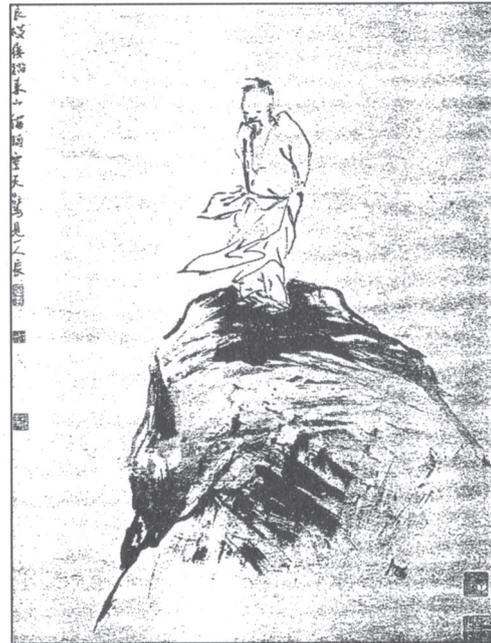


図10 国家文物局主編 1996 『中国文物精華大辞典・書画卷』上海辞書出版社 より

まさに「made in China の絵図」ですね。

鹿内先生は、この絵図をそのまま素材にするのではなく、この絵図から人物を取り除いてしまいます。そして、「岩だけの図」（図11）の中に、「自分の姿」を書き込ませます。さらに、①「顔はどちらに向いていますか。」、②「手はどうしていますか。」、③「風はどちらから吹いていますか。」とガイドします。できあがったオリジナルの絵図を自己分析に使うというのです。

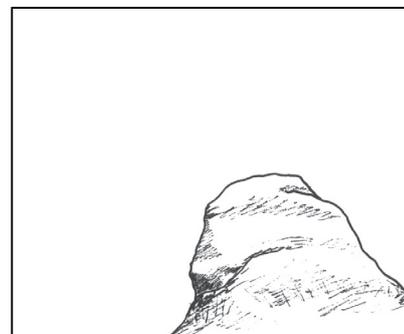


図11 岩山だけの図（鹿内信善作成）

この実践は、北京の大学生に対して行なったものですが、日本に戻ってきてから中学校3年生を対象とした実践も行われました。大学生でも、中学生でも、実に個性的な「自己分析文」がこの本には載っています。

この絵図の他にも、面がまえやツノの形、体や顔の向き、大きさや体格などが異なる5頭の牛たち……。中国の国宝でもある「五牛図」（図12）を用いた「自己分析」の実践も、決して見逃せません。

この絵図もこの実践も、詳しくは『やる気をひきだす看図作文の授業』を手にとってご覧ください。こんなに紹介されている実践の「どれから授業をしたらいいんだ？」と、おそらくアタマを抱えることでしょう（笑）。（編集委員会注：『やる気をひきだす看図作文の授業』も版元品切れです。この書籍も図書館等で探してください。）

11. 「ボトムアップの看図作文」と「トップダウンの看図作文」

「ボトムアップ」——？ 「トップダウン」——？
「なにやらムズカシイ言葉が出てきたな。」「やっぱり『上級編』だからかな。」「ここはもう飛ばして読もう。」などと思われた方。そんなにムズカシイ話ではありません。ぜひ、ひきつづき、おつき合ってください。

まず、「トップダウンの看図作文」の方からお伝えします。きわめておおざっぱに言うと、「トップダウンの看図作文」というのは、「先にタイトルを与えて、その後に絵図の読み解きをする看図作文」です。

例えば、絵図を見せます。例えば、「たぬきの病気」というタイトルを与えます。生徒は、「たぬきの病気」という枠組みをアタマに入れて、絵

図を読み解きます。事前に一定の枠組みをもっているのに、絵図の読み解きの際も、作文として仕上げる最終形が「たぬきの病気」にふさわしいものになるように進めていくことになります。

「先にタイトルを与えること」が「しぼり」となるのでは、と思われる方がいるかもしれません。そういう面がゼロかということ、ゼロとは言えません。でも、「しぼり」ではなく、生徒にとっては「目安」や「よりどころ」になるともいえます。

この「トップダウンの看図作文」の効果は、『やる気をひきだす看図作文の授業』でお確かめください。実際に生み出された作文を読むと、「トップダウン」のよさが実感できます。

次に、「ボトムアップの看図作文」です。これは「先にタイトルを与えないで、その後、好きなように絵図の読み解きをする看図作文」です。なんの「しぼり」も「目安」もないので、生徒は好きなように絵図を読み解きます。自由といえば自由でしょうが、いざ作文を書く段階になっても、「うまくまとめきれない」可能性もあります。ちなみに、私が本研究誌に掲載していただいた実践は、どちらも「ボトムアップの看図作文」です。

『やる気をひきだす看図作文の授業』に限らず、鹿内先生の著書の素晴らしさのひとつは、こういった「実践を支える理論」が質・量ともに豊富だということです。授業をする者には、授業の進め方に「好み」「クセ」「パターン」があります。無意識にその「パターン」に合った授業だけが続けてしまいがちになります。これは、私が「ボトムアップの看図作文」だけを続けるのと同じです。

それが悪いと言っているわけではありません。ただ、授業の進め方のバリエーションとして、「他のパターン」の存在を知っていて、あえてそれを



図12 五牛図（馬季戈（出版年不詳）『唐韓滉及其[五牛図]』天津人民出版社）

続けているのか——。それとも、「他のパターン」を知らずに、ただ惰性でしか続けられないのか——は、まったく異なります。

教室には、多くの生徒がいます。教師の「決まり切ったパターン」に合う生徒や合わせられる生徒だったら、授業は楽しく充実した時間となるでしょう。でも、教師の「決まり切ったパターン」に合わない生徒や合わせられない生徒だったら、どうでしょうか。

こういった授業者の無意識、無自覚な「好み」「クセ」「パターン」にも気づかせてくれる「自分の授業を点検できるリスト」「授業実践を底支えてくれる授業理論」にもなっているのが、鹿内先生の著書の「最大の魅力」です。

12. 「問い」をもつ心

私が「看図作文」の授業を始めた頃、もう20年以上も前でしょうか。その頃は、こんな絵図から「最初の授業」を始めていました。



図13 白帝主編 1999 『看図作文宝典』
中国青年出版社 掲載の絵図を模写

「黒板のようなものの前に立つ人物」を指して、「これ、だあれ？」と聞くと、生徒は様々な「答え」を口にします。「理科の先生」「家庭科の先生」「研究者」「お料理教室の講師」「爆弾づくりの犯人」……。

「手に持っている紙のようなもの」を指して、「これ、なあに？」と聞くと、「今日の授業の『課題』

を書いたメモ」「調理実習の手順」「学会での発表原稿」「足りない食材を買うための買い物リスト」「これから送りつける犯行声明」……。

今、お読みいただいている方は、どんな「問い」を用意できますか。生徒からどんな「問い」が生まれそうですか。

きわめておおざっぱな言い方になりますが、小・中・高・大と「これまでの学校」では、【「答え」を覚える授業】、【「答え」を覚える教育】が基本線でした。均質で勤勉な労働者を大量に育て上げ、一斉に大量に就職させ、終身雇用を保障する——。「これまでの社会」ではそれでうまく世の中は回っていたのです。

でも「これからの社会」は、もうそんなことは期待できません。世界でも稀なペースで少子高齢化が進み、急激な人口減少国となる日本では、これから会社の寿命は3年、5年とも言われるのだそうです。いよいよ「答え」のない時代に突入するのです。

生徒たちが学校を卒業して世の中に出る時には、「これからどうしていくといいのだろうか。」「この仕事では、何が一番大切なのか。」「目の前の人に対して、何ができるのか。」「……」などなど、ひとりひとりが価値ある「問い」をもつ心が大切になってくるはずです。

これは、生徒だけではなく、大人である私たちも同じです。この「問い」をもつ心は、小さなことから始められます。その小さなひとつとして、この「看図作文」の授業が位置づくると私は考えています。

「問い」をもつことが楽しい。他の人の「問い」、他の人の「答え」を聞く時間が面白い。自分で考えた「問い」に対して自分で「答え」を考えるのがたまらない……。

これまでの学校教育であまり重んじられることのなかったこういった資質や能力を、教室の仲間とともに、試行錯誤しながら、楽しみながら育てることができるのが、この「看図作文」の授業をする最大の魅力でもあり、最大の醍醐味なのです。

「看図作文」の楽しさは生徒たちだけではなく、

私たち教師も感じられるものなのです。そのことを示すエピソードを紹介し、拙論を閉じたいと思います。このエピソードは『看図作文レパートリー』のコラムに私が執筆したコラムの再掲です。

同僚も喜ぶ看図作文

私（森）の学校では、全クラス同一内容の授業をします（あたりまえですが）。そのため、私が看図作文授業をするときは、その学年で国語を担当している他の先生にも看図作文授業をしてもらいます。

ある年、「主免は体育で、国語は副免です。国語を教えるのは初めてなんです…。」という先生と学年を組みました。本人の希望も聞いて、絵図・発問・指示・説明・板書内容・配付プリント等々、「すべてこの通りやってねセット」を作りました。

看図作文授業の前に、その先生ひとりを相手に模擬授業をしてあげました。そのときのことです。「わー、たぁ～のしい～。これ、なんですかぁ。ずっとこれ（看図作文の授業）だけしませんか～（笑）？たぁ～のしい～！」

転勤した彼女は、今は国語だけ教えています。

（鹿内編著 2014, p.156 より）

森 寛 2020 『『看図作文』のスズメー誌上・模擬授業体験をー』『全国看図アプローチ研究会研究誌』2号 pp.12-19

森 寛 2022 「看図作文」の授業レポートー「20枚の絵図」で願いを伝えるー『全国看図アプローチ研究会研究誌』13号 pp.3-17

鹿内信善 2003 『やる気をひきだす看図作文の授業ー創造的「読み書き」の理論と実践ー』春風社

鹿内信善編著 2010 『看図作文指導要領ー「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスンー』溪水社

鹿内信善編著 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ協同学習の新しいかたち・看図作文レパートリー・』ナカニシヤ出版

2022年8月23日受付

2022年8月23日受理

引用・参考文献

茅野徑子 2020 「肯定感を育て認め合う集団づくりを目指してー看図アプローチ協同学習による授業実践ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』2号 pp.3-11

石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善 2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチー絵本づくり授業実践の報告ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1号 pp.2-15

文部科学省 2018 『中学校学習指導要領』東山書房

文部科学省 2018 『小学校学習指導要領』東洋館出版社